

巻頭言

3年目に期待して

国際印刷大学校

副理事長 八尋 弘文

早いもので印刷界の期待を集めて設立された国際印刷大学校も三年目になろうとしています。その間、木下堯博学長はじめ教授の方々の精力的な行動は、各種のレポートを通じて印刷業界の改革に新しい風を送りつづけました。設立に当たっていささか関与させていただいた一人として誇りに思います。設立の意図は、既存の印刷系大学や専門学校などの教育では21世紀の印刷業界のニーズに応えきれない。デジタルによるネットワーク化によって世界のグラフィックアーツ系大学との連携を視野に入れたバーチャル大学として実務経験豊かな教育研究指導をおこない、教育界と産業界のギャップの解消につとめ、21世紀の印刷業界に必要とされる人材育成を行うことであったと考えます。仄聞するにdrupa2000の報告、韓国印刷界との研究提携、日本における印刷文化史など設立所期の目的を達しつつあることは同慶の極みでございます。

私ども中小企業は、この激変する経済環境の中でITによる構造改革を求められており、経済のパイの減少によって量から質の経営にシフトする必要がある現状を考えると、知的付加価値の創造が必須となってまいりました。一方、平成10年8月に「大学等技術移転促進法」が施行され、各大学にTLOの設置の動きが進行しつつあります。貴大学校の事業の中にTLO全体を把握して印刷界に技術移転に関するPRや啓発活動を行なえるコーディネータの教育指導を加えてほしいと熱望いたします。

合わせて印刷業界の皆さま方に誌面を借りて訴えたいのは、この国際印刷大学校は早くから情報産業の中核をなすべくデジタル化、ネットワーク化を進めてきた印刷業が多分にその集積したノウハウを技術者の「暗黙知」として共有するという昔からの閉鎖性を改善して、未来に継承出来る「形式知」としてデータ化する能力を養成教育する場であるということです。大変きびしい景況のもとで大変なこととはいえ「米百俵」に学んで一社でも多くの方々にご賛助いただければ幸いです。21世紀冒頭のこの印刷界の記録が、優れて業界発展の礎になることを希望し、貴大学校の今年が意義ある年であることを祈念いたしております。